

市野与進こども園 2020(令和2)年度 事業報告

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症のため、全ての行事を中止又は縮小対応とせざるを得ませんでした。保護者を集め行事中止の説明をすることができず、書面で説明させていただきました。保護者の側からは「子どもの成長を感じ取ることができない」といった意見が挙がりましたが、一方で「今までにない病気のまん延に仕方がない」と感じる保護者もあり、行事を含めた保育の在り方・考え方を、「子どもの姿」を中心とした保育の過程としてみてほしいことを伝えました。そして普段見ることが少ない園での生活の様子を、各クラスでビデオに撮りDVDにして販売をしたところ、結果的に良好な反響を得ることができました。

新型コロナウイルス対応のための国からの補助金150万円は、有効利用させていただき衛生用品・検温器・空気清浄機などを充足させることができました。

また重点的に力を入れてきた園児の「安全対策」と「子どもの発達年齢に合わせた運動機能の促進」、働き方改革に合わせた「働きやすい職場環境作り」、保育の質につなげる「自己評価」について下記に報告いたします。

① 運動機能の促進

木製総合遊具からの落下事故に対する安全対策として、遊具の下にゴムチップを敷き安全性を強化しました。また「運動機能を伸ばし、発達年齢に合わせた環境づくり」として「既存の園庭の芝生化」と「築山づくり」を実施致しました。子どもたちの遊ぶ姿を毎日見ていると造って良かったと実感しています。

② 働き方改革について

働き方の改善を目的に「タイムカードの実施」「職員の休憩時間の確立」を行ってきました。事務的な仕事や会議等もノンコンタクトタイムにできるよう努力してきました。極力超過勤務はしないという指示を徹底したことで、職員の意識も少しずつ変化をしてきました。今後さらに時間の有効活用ができるようにと考えております。

③ 教育・保育の質の向上について

「学期ごとの保育の質向上」を目的とし、保育の共有化を図るため職員が毎日写真を撮り、その写真をもとに担任間で子どもの姿・あそびの分析を行い、保育の振り返りをしてきました。保育日誌に写真と分析内容を書き込み、それをもとにした週日案の提出を義務付けた結果、職員の中には保育が楽しいといった声も聞かれるようになり、大変でしたがやって良かったと実感しています。引き続き令和3年度も継続しています。

④ 保育の質につなげる「自己評価」について

学期ごとに自己評価の勉強会をしながら、1年間を通し園独自の評価項目(内容)を全員で作成してきました。最終的には3月に完成した評価表をもとに自己評価を実施し、結果・課題を出しました。

⑤ 地域、保護者支援について

新型コロナウイルスの関係上活発な活動はできず、親子広場も縮小等の対応となったこと、今後の課題となりました。

(園長 鈴木勝子 2021.6)

※ クラス編成と職員数

	0、1歳児	1歳児	1,2歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	こもも組	もも組	みかん組	れもん組	あか組	あお組	しろ組	
園児数<一号認定>	21	20	20	17	34 <5>	31	34 <5>	177 <10>
職員数パート含	9	4	5	3	4	2	3	30

保育補助・短時間保育教諭含む 保育担当のみ計上

職員数

園長	教頭	主幹 保育 教諭	副主幹 保育 教諭	保育 教諭	保育 補助	栄養士	調理員	事務員	用務員	育児 休業	合計
1	1	2		24	6	3	2	1	2	4	46

※ (3月31日現在)

※報告すべき苦情や重大事故はありませんでした。

事業内容詳細

法人の 基本方針	概要	内容	報告
1. 保育サービスの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 認定こども園教育・保育要領に沿った保育の実践 ● 国・市の方針等の環境変化に応じた園の経営 ● 行政に向けたタイムリーな情報発 	<p>【こども園のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな体験を通し何にでも挑戦する子ども ○ 人と関わる中で素直で優しい心を持つ子ども <p>【大切にしている育ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人との関わり ○ 自分の思いを言葉にする ○ 集団生活や遊びのルールを守る ○ 相手を思う気持ちを育てる ○ 基本的な生活習慣の確立 <p>【重点目標 ①】</p> <p>「教育・保育」「保育教諭」の質の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育・保育の質の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育教諭は常に子どもと一緒に遊びこむ。モデルになることの意識（遊びが学び） ・ 大人主導の「させる」保育から、子ども自らが「やってみよう」と思える環境作り。（子どもファーストの保育） ・ 「研究保育」の継続→管理者以外の職員も評価へ参加する。（評価側にまわることで自身の保育への見直しに繋がる） ・ キャリアアップ研修の内容を保育にどう結びつけていくか。保育の向上に活かせるような体制作り。（R.3年度の課題） 	

	<p>信</p> <p>●保育環境の整備</p>	<p>→研修参加職員は報告のみではなく、内容をどう保育に繋げていくかを皆で考えていく。</p> <p>R.3年度も「保育記録の書式の見直し継続」(乳児・幼児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「勉強会」の継続(乳児・幼児) <p>→「エピソード記録」や「保育ドキュメンテーション」を活用しながら、職員自身が子ども一人ひとりの育ちを読みとる力を育てる。(写真から読み取る子どもの育ち)</p> <p>※「保育ドキュメンテーション」とは、日頃の保育の中で子ども達が遊びや生活を通じて「どのように育っているのか」「何を学んでいるのか」を保護者に伝えることを意図として作成されたもの。ドキュメンテーションを作成する過程で子どもに対する「観察力」が高まり、記録を見ながら実践を振り返ることによってどのようにするべきかを保育教諭自身が考えられるようになる。</p> <p>★職員一人ひとりが…</p> <p>「子どもの育ちを読みとる力」がつけば</p> <ul style="list-style-type: none"> ➡ 「記録を書く力」となり ➡ 「子どもに沿った環境作り」「書類の簡素化」へと繋がり ➡ 保育(保育教諭)の質の向上へと繋がっていく <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修テーマ:「子どもの発達に沿った環境作り」 ・給食の質の向上 <p>給食テーマ:「美味しい給食(献立)作り」</p> <p>①給食会議の在り方を見直す。</p> <p>→量や食べ具合の話ではなく、「美味しい献立」にするにはどうしたらよいかの話し合い。</p> <p>②園児との関わりを増やすための取り組み。</p> <p>→「出前調理」の実施。</p> <p>子どもたちがクッキングをする際、給食職員も参加する。またクッキングの内容も、給食室の専門性を活かした内容や方法とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育に繋がる自己評価の実施 <p>→「他者評価」を取り入れたことで、自分自身の保育の振り返りにも繋がる。</p> <p>○保育中の安全管理体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達に沿った環境作り。 <p>※今までの環境作りは、室内装飾や子どもが主体的に遊ぶ為のものを中心として考えていたが、今私たちがすべきことは重大事故発生要因の一つである「運動機能を高める」ための環境作りが最優先である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事故報告」「ヒヤリハット」を通じて、子どもの育ち・職員自身の行動を分析。(発達過程の周知) 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、保育中の写真を撮り、それをもとに担任同士で保育の振り返りを実施中。 ・9月の勉強会において保護者に見せる写真に保育中の子どもの会話や様子等を「コメント」として入れて掲示することにする。 ・個人記録用紙の簡素化を実施。 ・自己評価の考え方・意義を全職員で共有できるように研修会を開き、全職員で自園の評価内容を作成することで意識を持つようにした。また第一回研修会を12月に実施。年度末には完成した評価を実施。 ・子どもの発達に沿った「環境づくり」が室内遊びのみに重点が置かれていたことから、見直しを図り、運動能力の促進にと修正をする。 ・木製総合遊具からの落下事故に対する配慮
--	--------------------------	---	---

	<p>●環境を守る 取り組み</p> <p>●保護者への 積極的な子 育て支援</p>	<p>→「ヒヤリハット」はあくまでも子ども一人ひとりの育ち を見る・確認する為である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの周知と実施訓練。 (職員研修) <p>→防犯訓練(警察署)・救急法(消防署)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育環境の充実…現園庭の芝生化・遊具の見直し <p>○節電対策(強化・工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの省力化 ・「自分のポケットにハンカチを」運動 →職員・3歳以上児 ・水の出しっぱなし(漏水)電気の付けっぱなしを常に確認する ・家庭での空き缶回収 <p>○保護者支援の充実化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育参加の実施 ・「親子ふれあい遊び」の継続 ・日々の保護者との「1分間コミュニケーション」 ・子どもの成長が感じられる「保育の見える化」の工夫(懇談会・行事・HP・クラスだより・園内掲示 等) <p>○家庭を巻き込んだ食育実践 (食育計画に沿った実践)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育テーマ 「家庭と一緒に楽しくマナーを身に付けよう」 「元気な体が分かる子」 ～「うんち」は健康のバロメーター～ 	<p>(対策)としてゴムチップを敷く工事を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリーンバンクを通じて園庭の芝生化を実現。保護者にも協力を得る。また運動機能を伸ばすための環境作りとして園庭に「築山」を造る。 ・今まで自分のハンカチを使用するであったが新型コロナの関係上ペーパータオル使用に変更 ・新型コロナの関係上親子ふれあい遊び・懇談会・保育参加・行事等が中止になり「保育の見える化」が実施できない状況だった。そこで「フォトフォリオ」に切り替えたり、ビデオで日常の様子を撮るなどして、少しでも「保育の見える化」をはかっていった。
<p>2. 職員の確保・育成</p>	<p>●職員が働きやすい環境作り、待遇の改善</p> <p>●採用関係等</p>	<p>【重点目標 ②】 働き方改革の継続。働きやすい職場環境づくり。 (人材確保と育成)</p> <p>○子育てしやすい職場環境作り</p> <p>○業務の効率化を図る(職員一人ひとりの意識改革)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各書類(書式)の見直し ・保育補助の有効活用 →クラスの枠を外し園全体で活用していくことで、園全体の効率化と残業削減へと繋がる。 ・休憩時間の充実(45分実現化に向けて) <p>① 各クラスの流れ、休憩開始時間を再確認。</p> <p>② 各会議や話し合いを把握する為に、スケジュール化する。(全体・クラス・係・担当)</p> <p>③ 休憩会議を設け、45分にするにはどんな工夫や問題点が生じるかを話し合う。(実現可能かどうか)</p> <p>★休憩時間を再検討するには、職員一人ひとりの「意識改革」が最も必要とされる。</p> <p>人材確保</p> <p>○就職希望者に向けた「教育・保育」内容が見える園作り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「働き方改革」を常に念頭に置き、自園の欠点を把握し、実効することから始めている。

	<p>対外的にタイムリーな情報発信</p> <p>● 計画的な研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・合同就職説明会の有効活用 ・実習生の積極的受入れ ・内容が伝わるHPづくり ・採用者に分かりやすい求人情報の提供 ・フリーツアー（オープン保育）、園見学の実施 ・行事ボランティアの募集 <p>人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「選ばれるこども園」をめざした人材育成 ・自己評価（自己分析）の実施 ・計画的なキャリアアップ研修 ・「研究保育」「勉強会」の実施。 ・「園内研修」「食育研修」の充実 ・職員間での情報共有 	
<p>3. 地域への貢献</p>	<p>●「地域における公益的な取組」を含む地域の貢献活動の充実</p> <p>● 地域に対するタイムリーな情報発信</p>	<p>【重点目標 ③】</p> <p>保護者支援の充実と、園の特性を活かした子育て支援の実施。（地域貢献）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域を支援するため「学童保育」の実現化を検討。（今後の課題） →保護者や地域、職員からの強い要望を受け、学童保育の実現に向けた計画の策定。 ○子育て支援（親子ひろば）の充実化 ・「ベビーマッサージ」「マタニティーカフェ」の実施 →助産師への育児相談 ・「親子ふれあい遊び」の充実化（1～2歳対象） ・保育参加（体験）への呼びかけ →園の様子を見たり共に体験することで、「子育て」や「入園」の参考にしてもらう。 ・「離乳食教室（講座）」の実施 ・手作り給食（離乳食）の試食会 ○地域交流の継続 ・「いかまい会」への参加 ※「いかまい会」とは、地域の老人会主催の集い ・地域ボランティアの活用（食育・コーラス 等） ・地域防災への職員参加 ・近隣の「幼稚園・こども園・小学校」と継続的交流 	<p>・新型コロナ関係でほとんどの事業が中止または規模縮小での実施となってしまった。</p>
<p>4. 法人、事業基盤の強化</p>	<p>● 経営の把握と無駄の排除</p> <p>● 生産性の向上のために積極的にICTを取り入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予算は現状を想定しながらバランスよく考え立案をし、健全なこども園運営を行う ・事前調査をしっかりと行い、計画的に予算を編成する ・職員、責任者には運営状況を丁寧に説明する ・市の情報を確認しながら、環境の変化に対応 ・園長会、近隣園との情報交換及び情報共有 	<p>・年度末に現状と次年度の事業方針を説明している</p>